

申し入れ書

宇都宮地方検察庁

検事正 阪井 博 様

那須雪崩事故遺族・被害者の会

本日は遺族の思いを述べさせていただくこのような機会をつくっていただきありがとうございます。

平成 29 年 3 月 27 日に発生した那須雪崩事故について、関係者の刑事責任追及に向けた徹底した捜査をお願いいたしたく参りました。関係者に対する私たち遺族の処罰感情は事故後から変わることはなく、この事故をしっかりと立件し、関係者を起訴していただくことを望んでいます。

事故発生後、私たち遺族は事故を引き起こした栃木県教育委員会と高体連を注視して参りました。教員や関係者の処分などによってどのように事故に対するケジメをつけるつもりなのか、また再発防止へどのように取り組んでいくのか注視し、質問を繰り返して参りました。

栃木県教育委員会が示したこの事故に対するケジメは、残念ながら極めて軽い処分に留まるものでした。再発防止策についても登山経験の乏しい教員が主体となって生徒を引率する点は事故前と変わることなく、いろいろと規則を定めてはいるものの、罰則もない形式的で実効性の乏しいものとなってしまっています。

これでは何の教訓にもなりません。8 名もの命が奪われた結果とはとても思えません。このような凄惨な事故を引き起こした結果としてしっかりとした教訓を残さないと、学校管理下においてこの先何度でも重大事故は繰り返されま

す。このような何の教訓も残さない結果となってしまうのであれば、私たちの息子の命は無駄になってしまいます。

現状の学校の環境は異常な状態です。十分な安全確認もなされず、誰も責任をもたないまま部活動が実施されています。現に那須雪崩事故のような凄惨な事故が発生しても誰も責任を取ることはありませんでした。事故後も安全性が担保されず、相変わらず緊張感もないまま顧問教員が主体となって登山活動は継続され、冬季の登山も実施されているような状況です。

また他の部活動においても、真夏で気温が35℃に達するような環境であっても屋外や締め切った体育館で部活動が実施され、熱中症で救急搬送者が多数発生するような事態が日常的に発生しています。熱中症で何人もの生徒が亡くなってもその状況は変わっていません。

緊張感もなく、生徒の身体・生命を危険に晒している状況は事故前と比べると変わることはありません。

そういった状況の中でのお願いです。教育現場に緊張感を持っていただくため、安全確認もなく漫然と部活動を実施し、生徒の身体・生命を危険にさらすことは罪であるこの事故の捜査を通じて明言していただきたいのです。それが私たちの望みであり、死んでしまった息子たちの生きた証しになると思っています。

きっとその結果が起点となり、全国的に学校管理下での生徒の安全性を見直すきっかけとなると思っています。そうなるかどうかはこの事故に対する警察と検察の皆様の捜査とその結果に掛かっています。

息子たちの命を無駄にしない、そのような結果を期待しております。

よろしく願いいたします。